

# 尹錫悦大統領弾劾運動と女性

ヤンイヒョンギョン(韓国女性団体連合)<sup>1</sup>

## 1. 史上未曾有の事態が発生

- 尹錫悦は 2024 年 12 月 4 日午後 10 時 28 分、憲法違反・違法な戒厳令を宣言した。尹錫悦は国民が厳粛に委任した大統領の権限を濫用し、憲政秩序を一瞬で破壊し、大韓民国国民が数十年にわたり血と汗の闘争で辛抱強く進めてきた民主主義を崩壊させた。
- 韓国女性団体連合（以下女性連合）を始めとした韓国の市民社会団体と市民は、戒厳令が宣布されるや即座に国会前に集結した。女性連合事務室は、国会に近接しており歩いて 15 分の程度で国会正門前につくことができる。国会前の車道は 8 車線あり、市民たちで埋め尽くされていた。軍隊が銃をもって国会に侵入し、戦車が押し寄せるといふ知らせを聞き駆けつけたのである。もしかしたら、軍の銃に撃たれて死ぬかもしれない、あるいは連行されるかもしれない状況でも市民たちはこの国の民主主義を守るために駆けつけたのではないかと言葉にするには難しいがそんな気持ちになる。民主主義を守ろうとする市民の熱い気持ちが国会前をいっぱい埋め尽くしたのである。韓国は、歴史的に政権が違法、違憲行為をもって国家を危機に陥れる事態が起こるたびに市民が命を懸けて民主主義と国を救おうとする。
- 警察と軍隊は、戒厳令を解除させるために国会に入ろうとした国会議員を妨害しようとした。これに対し、国会議員たちは国会の壁を乗り越えて中に入った。そして、市民たちは警察の阻止に抗議し、戒厳令が解除された後も夜通し国会前を守り続けた。幸い、違法かつ違憲でもある戒厳令は、約 2 時間で解除され、その翌日の 12 月 4 日、市民団体は「尹錫悦の違法な戒厳令を非難し、内乱罪で尹錫悦の退陣を求め、国民主権の実現を目指す全面的な全国民抵抗運動」を宣言し、集会を開催した。

## 2. 尹錫悦の即時退陣・社会大改革 緊急行動 活動の紹介

- 1) **構成**：総計 1,739 団体（労働組合、農民、女性、環境、統一・平和、障害者、セクシャルマイノリティ、学生、ケアワーカー等全国の市民社会団体）
- 2) **集会の経過**：124 日間 67 回の集会やデモ、市民行進 60 回、約 145km（ソウル地域）

---

<sup>1</sup> 韓国女性団体連合（KWAU、女連）は、1986 年に発足した韓国の主要な女性運動団体だ。社会の民主化と女性解放を目的とし、多様な女性団体が連携して活動している。

女連は、男女平等、女性福祉、民主・統一社会の実現を目指す。設立当初は 21 団体だったが、現在は約 30 の加盟団体と 6 つの地域支部を持つ。主な活動は、女性の権利向上と性差別撤廃だ。男女雇用平等法の改正運動や性暴力被害者の保護、家族制度改革、女性の政治参加促進、社会福祉充実に取り組んでいる。特に、国連経済社会理事会（ECOSOC）との協議資格を持ち、国際的な女性運動とも連携する。

活動家は、労働者、主婦、学生、知識人など多様な背景を持つ。1980 年代の民主化運動から続く「進歩的」な視点を持ち、性差別を構造的な問題と捉えるフェミニストだ。草の根活動と政策提言を融合させ、韓国の女性政策形成に大きな影響を与えてきた。女性家族部の創設やジェンダー予算導入など、多くの成果を上げている。

- 2024年12月3日の戒厳令発令後、2025年4月5日までの124日間、光化門などソウル市内だけで67回の集会デモが開催された。2日に1回のペースで市民が集まり、内乱首謀者の大統領職罷免を要求した。
- 12月3日以降の弾劾訴追案可決（12月14日）までの11日間、毎日国会前での集会が続いた。
- 農民のトラクターデモ行進を警察が阻止したことで発生した2度の南泰嶺<sup>ナムテリョン</sup>の闘い（2024年12月21日～22日、2025年3月25日～26日）は、怒った市民の自発的な集結により、2日間連続で実施された。
- 漢南洞<sup>ハンナムドン</sup>官邸<sup>2</sup>に隠れて合法的な逮捕執行を拒否した尹錫悦を逮捕するため、『尹錫悦即時逮捕緊急行動』（1/2～1/5）を市民が2泊3日（1/4～6）の闘争で展開し、漢南洞の激戦を勝利に導いた。
- 2025年3月8日、検察の信じがたい拘束期間の計算方法により内乱首謀者尹錫悦が釈放された後、ほぼ毎日緊急集中行動の集会デモと断食座り込みを続けた。
- メリー退陣クリスマス（12/24）、内乱終結大晦日祭り（2/12）など特別な日にも広場に集まり、ナイトウォーク（3/5、3/6）などが実施された。

### 3) 1000万の市民、1000の発言、1000人の芸術家が埋め尽くした集会

- 延べ1,000万人の市民が広場に集まった。約1,030件の発言があり、そのうち約70%は発言を申し込んだ市民の声で埋め尽くされた。220件を超える公演と1,100人のアーティストが、集会の多様性と活気をさらに盛り上げた。
- 総勢1,000人を超えるボランティアが、誰もが排除されない平等な集会を目指し、手話通訳者166人がほぼすべての集会に欠かさず参加した。緊急医療支援チームには、約2,000人の医療従事者が参加した。人権侵害監視団（民主社会のための弁護士会）には、1,000人を超える弁護士が参加した。人権侵害監視団は集会開催中、極右勢力の集会妨害の予防と対応活動を行っただけでなく、市民の集会・示威の権利保障のため、集会禁止・制限の通告の執行停止申請、警察の集会場所および動線規制への抗議などを行った。
- フードトラック、暖房トラック、ホットパック、ミネラルウォーター、ティッシュ、生理用品、各種飲料・食品、医薬品など必要な物資を市民が惜しみなく提供した。さらに、集会や徹夜座り込みを行う周辺の店舗、宗教施設、ガソリンスタンドなどでは、トイレや休憩場所を提供した。

### 4) 広場を越えて出会った150万人の市民：オンラインとオフライン、あらゆる分野と層、全国津々浦々、海外各地での出会いと連帯

- 尹錫悦の即時退陣を要求し、民主主義を守るための市民行動は、広場での集会参加だけでなく、オンラインとオフラインを合わせて約150万人の市民とつながった。各種署名運動、座談会、市民公開討論会などが行われた。
- 尹錫悦の即時罷免を要求する市民の力は、光化門<sup>クワンファムン</sup>一か所だけでなく全国至る所で週末だけでなく平日にも続き、概ねソウル67回、釜山50回、蔚山52回、済州29回など、全国100カ所以上で1,800回以上実施された。

<sup>2</sup> 韓国の漢南洞（ハンナムドン）官邸は、尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領（当時）が、従来の青瓦台（チョンワデ）から執務室を国防部庁舎に移転するのに伴い、新たな大統領官邸として使用することになった場所である。

- 海外でもドイツのフランクフルト、ベルリン、ポッフム、シュトゥットガルト、ミュンヘン、フランスのパリ、イギリスのロンドン、日本の東京、大阪、福岡、アメリカのニューヨーク、ワシントン、LA、アトランタ、シアトル、サンフランシスコ、カナダのトロント、メキシコのメキシコシティ、オーストラリアのシドニー、メルボルン、ニュージーランド・オークランドなど海外各地で集会、ピケッティング、キャンペーンなどが実施された。
- 市民団体ごとの活動も継続された。罷免要求リレー記者会見、時局宣言、各界の文化芸術人たちは、与党「国民の力」解体に向けた多様な活動を展開した。また、24の市民社会団体は出勤時と昼食時に光化門駅、市庁駅、恵化駅、弘大入口駅、合井駅、忠武路駅、明洞駅などソウル各地で尹錫悦大 80 罷免緊急共同行動ピケッティング<sup>3</sup>、尹錫悦罷免を街宣車による地域宣伝戦を実施した。

## 5) 社会大改革に向けて：11 の分野で 118 の課題と 424 の細分課題、1 つの特別課題

- 社会大改革特別委員会は、11 の分野において 118 の課題と 424 の細分化された課題、および 1 つの特別課題「内乱の完全な終結と憲政秩序の回復」を策定した。このプロセスには、非常行動に所属する 1,700 を超える団体の代表として 127 団体、189 人の専門家・活動家、および市民が参加した。また、社会大改革のオンライン市民意見交換プラットフォーム「千万のつながり」を通じて、10 万人を超える市民と交流し、総計 800 件を超える市民の意見と社会大改革に関する政策提案を受け付け、これらの意見を課題に反映させた。
- ソウルでは、28 のテーブルと 200 人を超える市民が参加した「社会大改革大討論会」（3 月 9 日）を開催し、社会大改革に向けた市民の熱望をまとめた。また、慶尚南道、光州、仁川、全羅南道でも、各地域の課題を含む社会大改革討論会が開催された。「千万のつながり」を通じて提案された「千万人との対話」という地域別社会大改革対話会も、全国で 32 の集まりが開催された。
- 社会大改革特別委員会は、市民が共同で作成した社会大改革の課題を各政党に伝達し、大統領選挙プロセスにおいてこれらの要求が各政党の公約に反映されるよう注力した。8 年前の朴槿恵退陣以降、社会大改革が結局頓挫してしまった「ろうそく革命<sup>4</sup>」の過ちを繰り返さないよう、最後まで監視し要求していく計画である。

## 6) 非暴力の平和的集会

- 尹錫悦即時退陣・社会大改革緊急行動は、2024 年 12 月 14 日に発足し、現在全国で 1,732 の団体で構成されており、140 名の活動家（ソウル）がすべての活動を共同で企画・遂行している。応援棒を掲げた市民たちが一つに集い、光の祭典を繰り広げ、民衆歌謡と K-POP が共に鳴り響き、広場は民主主義を護ろうとする市民たちで埋め尽くされた。

<sup>3</sup> ピケッティングとは、通常は特定の目的のために、特定の場所（店舗、施設、政府機関の前など）で人々が集合し、抗議、意見表明、または情報提供を行う活動を指す。

<sup>4</sup> 韓国の「ろうそく革命」は、2016 年後半から 2017 年初頭にかけて朴槿恵大統領（当時）の不正疑惑に端を発し、辞任・弾劾を求める大規模な市民デモ運動である。参加者がろうそくを手集めたことから名付けられた。全国で延べ 1700 万人以上が参加し、非暴力で平和的なデモが展開され、朴大統領の弾劾・罷免、そして文在寅政権の誕生につながった。市民の直接的な行動が政治を変えた画期的な出来事として、韓国民主主義の成熟を示すものと評価されている。

- 何よりも、124日間、大きな事故なく非暴力的・平和的・民主的で、多様で豊かな集会文化を築くことができたのは、市民の高い意識と、『平等で平和な集会』を築くために宣言を毎回再確認し、集会を始めた全員の努力の結晶である。

### 3. 広場の女性たちと民主政治の進化 — 応援棒を手に現れた20~30代の女性たち

- 報道機関ニュース「打破」が、ソウル市が提供する「生活人口データ」を基に、2024年12月7日（土）国会前集会に参加した人数を推計した結果、総参加者28万人（最低基準）のうち17%が20代女性だった。20~39歳までの20~30代女性を合わせると、全体の28%を占めている。
- 20~30代の女性は、もっとも大切なもの（民主主義）を守るために、もっとも大切なもの（応援棒）を手に集まりました。20~30代の女性は、10代の頃にセウォル号沈没事件<sup>5</sup>を、20代の頃にイテウォン事故<sup>6</sup>を経験した世代である。また、韓国では2016年の江南駅女性殺人事件<sup>7</sup>、2018年のMeToo運動、2019年の堕胎罪廃止、2020年のテレグラムN番部屋性搾取事件<sup>8</sup>、2024年のテレグラムディープフェイク性暴力事件<sup>9</sup>などが発生し、これらの問題解決のための集会やオンライン行動などに多くの20~30代の女性が参加してきた。20~30代の女性たちは、女性に対して発生する性暴力、家庭内暴力、デジタル性暴力など、女性暴力と差別に対して積極的に声を上げてきた。
- 尹錫悦政権はアンチフェミニズム政権であり、尹錫悦は性差別主義者だった。尹錫悦は「構造的差別はない」と述べ、公約で女性/性平等政策を担当する政府機関である女性家族部の廃止を公約に掲げた。大統領になっても一貫して女性家族部の廃止を推進し、政府組織法改正を推進したが、国会を通過できな

---

<sup>5</sup> 2014年4月16日、韓国の旅客船セウォル号が過積載とずさんな運航管理により沈没し、修学旅行中の高校生ら304名が犠牲となった。船長らは乗客を見捨てて脱出し、政府の初動対応も不手際が目立った。この事件は韓国社会に深い傷痕を残し、政府への不信感を募らせた。安全軽視の風潮や官僚主義、そして社会全体の信頼の欠如が浮き彫りになり、朴槿恵政権の求心力低下の一因ともなった。遺族たちは真相究明と責任追及を求め続け、社会全体に安全意識の変革を迫る契機となった。

<sup>6</sup> 2022年10月29日、ハロウィーンで賑わうソウル・梨泰院の狭い路地で群集事故が発生し、158名が犠牲となった。多くの20代~30代の若者が命を落とし、韓国社会に大きな衝撃を与えた。この事故は、事前警備体制の不備や、危険を知らせる通報への対応不足など、警察や政府のずさんな管理体制が露呈し、「人災」との批判が噴出した。特に、主催者のいない自発的な集まりに対する安全管理の枠組みの欠如が問題視された。セウォル号事故と同様に、政府への不信感が高まり、安全軽視の風潮や責任回避の姿勢に対する国民の怒りが噴出。再発防止を求める声が高まると共に、国家の安全管理システムや危機対応能力に対する根本的な問いを突きつけた。

<sup>7</sup> 2016年5月、ソウル江南駅近くの男女共用トイレで、面識のない女性が20代の男性に殺害された。犯人は「女に無視されてきた」と供述し、女性嫌悪に基づく犯行とされた。この事件は、韓国社会に潜む深刻な女性嫌悪と性差別を浮き彫りにし、フェミニズム運動の大きなうねりを引き起こした。「私は女性だから生き残った」というメッセージと共に、女性たちは自分たちの日常に潜む性暴力や差別の現実を訴え、連帯した。事件を機に、性差別問題への社会的な関心が高まり、性犯罪対策や女性に対する暴力への認識改善を求める声が強まった。同時に、オンライン上での男女間の対立も激化し、社会に根深い亀裂をもたらした。

<sup>8</sup> 2020年に発覚したテレグラムN番部屋性搾取事件は、メッセージングアプリ「テレグラム」上で、未成年者を含む女性たちが脅迫され、性的搾取された動画や画像が流通していたデジタル性犯罪事件である。数万人もの有料会員が閲覧していたとされる。この事件は、韓国社会にデジタル性犯罪の深刻さを突きつけ、世論の大きな怒りを買った。関連法の改正や処罰強化が図られ、政府や社会全体でデジタル性暴力根絶への意識が高まる契機となった。

<sup>9</sup> 2024年に韓国で深刻化したディープフェイク性暴力事件は、AIを使い女性の顔をわいせつな画像や動画に合成しテレグラム等で拡散したデジタル性犯罪である。特に未成年への被害が拡大し、韓国社会に大きな衝撃を与えた。N番部屋事件後もデジタル性暴力への危機感を再認識させ、政府は対策強化を進めている。

った。そのため、大臣を任命しないなどして女性家族部を無力化した。その結果、女性家族部長官のポストは16ヶ月間も空席だった。

- また、政策用語から「女性」と「性別平等」を削除し、性暴力予防事業の予算を削減した。労働市場で発生する性差別や暴力など、女性労働者が現場で直面する苦悩を相談する民間雇用平等相談室の予算を全額削減した。
- 韓国は尹錫悦政権のアンチフェミニズム政治に呼応し、バックラッシュはさらに深刻化した。次々と発生するデジタル性暴力事件、女性の髪が短いという理由で残酷に暴行をされた晋州コンビニ事件など、数多くの事件が発生した。これらの問題に対し、尹錫悦は適切な解決策を講じなかった。アンチフェミニズムを政治的資産として利用してきた尹錫悦に対し、20～30世代の女性は積極的に対抗した。女性連合は2022年から戒厳令が発令されるまで、女性家族部の廃止阻止活動、ディープフェイク性暴力事件などに対して数多くの活動を展開したが、20～30年代の女性たちは常に共に闘った。
- 韓国は2015年を境に、フェミニズムのリポートやミートゥー運動を通じてオンライン空間でフェミニズムの基盤が拡張された。しかし、尹錫悦は大統領在任中、正反対の道を歩んだ。女性に対する暴力と差別を否定し、女性を削除した。尹錫悦は女性とマイノリティを弾圧し、最終的に違憲で違法な戒厳令で民主主義まで破壊したのである。
- 尹錫悦大統領の弾劾広場に最も早く、最も多く集まったのは女性市民たちだった。広場は単なる抵抗の空間を超え、女性たちが民主主義を再構築する実践の場となった。怒りと絶望を越え、女性たちは新しい民主主義を創造し、自らの手で築き上げた。女性主権者の実践と感覚が民主政治を変革した。女性たちが主導した広場政治こそが、韓国民主主義の転換点を作り出したのである。今回の広場では、従来の政治が軽視してきた「平等、ケア、連帯」が主要な政治的価値として定着し、これは女性たちが身体で実践し蓄積したジェンダー化された政治経験の表れであった。特に「マルボル同志」「ナムテリョン」<sup>10</sup>などで

---

<sup>10</sup> 本稿で韓国女性団体連合が用いる「マルボル同志 (말벌 동지)」と「ナムテリョン (남태령)」とは、最近の韓国社会におけるデモや連帯のあり方の変化を示す言葉である。「マルボル同志」は、主に20代から30代の若い女性たちを指す。彼女たちは特定のテーマにとらわれず、労働者、障害者、農民など、様々な弱者の闘いの現場に直接出向き、連帯し、声を上げる積極的な行動主義を見せる。あたかもスズメバチが仲間を守るように、連帯が必要な現場に駆けつけ、力を貸す姿を象徴している。

「ナムテリョン」はソウル冠岳区と京畿道果川市の間にある峠だが、ここでは、そこで始まった青年女性と農民たちの連帯活動を象徴する。単なる地名ではなく、新しい連帯の出発点であり、弱者と弱者が出会い、新たな力を生み出す空間という意味を持つ。ナムテリョンでの連帯が、他の弱者たちとの連帯へと広がるきっかけとなった。

「マルボル同志」と「ナムテリョン」は、社会的な弱者たちと連帯し、能動的に闘争に参加する若い女性たちの新しい行動主義を表す象徴的な言葉といえる。

「マルボル同志」の日本語訳について：「マルボル同志 (말벌 동지)」を日本語に直訳すると「スズメバチ同志」となる。しかし、この言葉は単なる直訳以上の意味を持つスラングに近い表現で、積極的で行動的な連帯者であり、弱者や不当な扱いを受けている人々のために、自ら積極的に現場に行き、声を上げ、連帯して闘う人々を指す。とくに、フェミニズム運動や様々な社会問題に対しオンラインだけでなくオフラインのデモや集会にも積極的に参加する20代～30代の若い女性たちを指すことが多い。さらに、多様な連帯を特徴とし、特定の政治的立場や組織に縛られず、労働者、農民、障害者など、多様な社会の弱者たちとの連帯を広げていく姿を示す。これに、スズメバチが巣や仲間を守るように、守るべき存在のために積極的に行動するというイメージが加わる。したがって、「말벌 동지」を日本語で表現するなら、「積極的な連帯行動をする若い女性たち」や「現場に赴いて闘う同志連帯」といった意味合いが近い。

現れたアイデンティティの政治<sup>11</sup>は、連帯の政治へと拡大し、新たな民主主義の可能性を開いた。

#### 4. 性平等民主主義の実現に向けた努力と今後の課題

##### 1) 平等な集会を実現するための女性連合の努力

- 違憲、違法な戒厳令は2時間で解除され、尹錫悦の退陣を求める集会が毎日国会前で開始された。尹錫悦即刻退陣・社会大改革緊急行動が開始される前だったので、集会は各団体が急遽連携を取りながら、かろうじて運営されている状況だった。しかし、集会に参加するたびに、どこか不快感で胸を締め付けるような感覚があった。広場では、罵声や女性やマイノリティを差別する発言が飛び交い始めたからだ。
- これを受け、女性連合は「平等集会約束文」の内容を構成し、ウェブポスターを作成した。2024年12月7日の集会から、集会が始まるたびに司会者が直接「平等約束文」を読み上げた。公式なメッセージが舞台から伝えられると、集会舞台での差別や憎悪の言葉は次第に消えていった。また、集会の初期段階で、集会で使用された曲（プレイリスト）に関する問題提起があったという情報を聞きました。そのため、女性連合と加盟団体が主催する集会で使用する音楽リストをまとめて整理し、送付した。今回の弾劾広場に響き渡った『再び出会った世界』、『アモール・パティ』などは、数年前から女性団体が集会で用いてきた曲である。また、尹錫悦即時退陣・社会大改革非常行動の共同代表団、共同運営委員長など主要な機関において、ジェンダーバランスを保つため、各機関に女性を最低30%以上参加させるよう努めた。

##### 2) 今後の課題

---

<sup>11</sup> 「マルボル同志」と「ナムテリョン」に現れるアイデンティティの政治：近年、韓国社会で「マルボル同志」や「ナムテリョン」といった言葉が、新たなデモや連帯のあり方を象徴するようになった。これらは、従来の運動とは異なる形で、アイデンティティを基盤とした政治のあり方を示している。

###### 1. 「マルボル同志」にみる積極的な女性のアイデンティティ

「マルボル同志」とは、主に20代から30代の若い女性たちを指す。彼女たちは特定のテーマにとらわれず、労働者、障害者、農民など、様々な社会的弱者の闘いの現場に直接赴き、連帯し、声を上げる積極的な行動主義を見せる。この動きは、まるでスズメバチが仲間を守るように、連帯が必要な現場に駆けつけ、力を貸す姿に例えられる。これは、従来の男性中心的な社会運動の枠組みにとらわれず、自身のジェンダー・アイデンティティ（女性であること）を基盤にしながらも、その連帯の範囲を多様な弱者へと広げていく点が特徴だ。フェミニズム運動を背景に持ちながらも、その活動は女性問題に限定されず、広範な社会問題に対する当事者意識と連帯意識を持って参加する。これは、自身のアイデンティティを出発点としつつ、他者のアイデンティティへの共感と連帯を深める、新たなアイデンティティ政治の形態と言える。

###### 2. 「ナムテリョン」が象徴する異質なアイデンティティ間の連帯

「ナムテリョン」は、ソウル冠岳区と京畿道果川市の間にある峠だが、この文脈では、そこで始まった青年女性と農民たちの連帯活動を象徴している。新しい連帯の出発点であり、異なるアイデンティティを持つ弱者と弱者が出会い、新たな力を生み出す空間という意味を持つ。この「ナムテリョン」での連帯は、都市部の若い女性と地方の農民という、一見すると接点のない異なるアイデンティティを持つ人々が、共通の課題意識や共感を抱き、共に闘うことを選んだことを示している。これは、それぞれのアイデンティティが持つ固有の経験や困難を認めつつ、それを乗り越えて共通の目標に向かう、より包括的なアイデンティティの政治の可能性を示唆している。

###### 3. 多様なアイデンティティ間の水平的な連帯

「マルボル同志」と「ナムテリョン」は、これまでの垂直的・階層的な社会運動とは異なり、多様なアイデンティティを持つ人々が水平的に連帯し、能動的に闘争に参加する新しい行動主義を表す象徴的な言葉である。これは、個々のアイデンティティの尊重を前提としつつ、それを社会変革のための連帯の力として再構築しようとする、現代社会におけるアイデンティティの政治の進化形と言えるだろう。

- 広場に集まった市民たちは、弾劾後の私たちが望む社会について多くの議論を交わした。市民が望む社会変革のうち、最も望まれるものは差別禁止、性別平等・人権・マイノリティの権利、つまり「誰もが差別を受けず、尊厳を持って生きる社会」であった。多くの市民は、性別、年齢、障害、性的指向、人種、社会的地位などによる差別のない社会を夢見ている。特に、差別を防止し人権を保障するための法律や制度が不足しているとの指摘が多く、これを解決するための包括的な差別禁止法の制定が必要だという意見が際立っていた。差別のない社会を実現するためには、法的保護、制度的改善、社会的認識の変革が同時に進められる必要があり、単に法律を制定するだけでなく、差別のない文化を築くための教育や政策的な支援が不可欠であるという意見も多数あった。
- 今後、韓国社会は尹錫悦政権下で後退した多くのものを再び回復し、より良い民主共和国を築くための努力をしなければならない。

#### 〈国家の性別平等政策および体系の回復と強化〉

- 尹錫悦前政権による女性家族部の廃止の試みなど、反女性的な政策方針により、国家の性平等政策と体系が深刻に損なわれた。政府の政策全体において、女性と性平等に関する課題が事実上削除され、女性家族部は実質的に機能不全に陥った。過去30年以上にわたり、性別主流化戦略を通じて苦勞の末に築き上げてきた国家の性平等システムが崩壊の危機に直面している現在、これを迅速に復元し強化することが極めて緊急の課題である。

#### 〈新しい民主共和国に向けた市民性の回復：市民の力のエンパワーメント〉

- 西部地裁暴動事件<sup>12</sup>や差別・嫌悪に基づく極右の言説の拡散は、韓国の民主主義が深刻な危機に直面していることを示している。このような状況は、民主的な市民としての「市民性をどのように回復し、強化していくべきか」という深い「悩み」を私たちに突きつけている。民主主義の基盤は、平等、平和、人権である。すべての社会構成員がこれらの核心的な価値を内面化し、実践するために積極的に努力する必要があり、平等と人権を基盤とした民主共和国を再建するための市民能力の強化が不可欠である。

---

<sup>12</sup> 2025年1月、ソウル西部地裁で尹錫悦大統領の逮捕状が発付されたことに反発した一部支持者が、裁判所に侵入し、備品を破壊するなどの暴動を起こした。これは韓国の法治主義に対する挑戦と見なされ、政治的対立の激化を象徴する事件となった。警察は多数の逮捕者を出し、社会に衝撃を与えた。

【尹錫悦弾劾広場を企画・準備した尹錫悦即時退陣・社会大改革緊急行動状況室で活動していたイム・ソニ事務局長の現場での経験の発表】

イム・ソンヒ（韓国女性団体連合事務局長）

## 「尹錫悦退陣広場に女性とマイノリティの声が響き渡る」

**市民たちは感動そのものだった。**

2024～2025年の冬、広場は怒りと希望の連帯の息吹で満たされていた。集会現場の安全管理を行い、行進を見守り、集会現場で活動家たちと話をしながら、多くの感動的な瞬間に出会った。市民たちは感動そのものだった。尹錫悦の即時退陣を求める広場では、常に女性とマイノリティへの差別撤廃、韓国社会に性平等が必要だという声が毎回響き渡った。それがまさに集会現場での市民の発言、パフォーマーの声と歌、参加者のプラカードのスローガンとして毎回現れた。

広場での時間は感動の連続だった。冷たい冬の風の中でも、市民たちは互いを支え合い、応援し合い、温かさを分け合った。行進に参加する市民が、行進司会者の手が冷たそうに見えて、自分の手袋をわざわざ渡そうとする姿、緊急行動スタッフとして蛍光ベストを着て集会会場を回っていると、「ご苦労様です」とチョコレートやお菓子を差し出す人々、行進司会を控えて冷たい風に吹かれながら行進車両に乗っている姿を見て、保温ボトルに熱いお湯を注いで手渡してくれたその心遣い、「私たちは勝つよ！」と疲れた私に励ましの言葉を残して去っていった市民たちの声、毎回の集会ごとに優しく挨拶を交わす一言が、疲れた一日を耐えさせる連帯の言葉だった。集会前に小さな飴やお菓子を手渡ししながら体調を気遣い、忙しい中でも互いを気遣う状況室活動家たちの仲間意識が、辛いその時間を耐えさせる支えとなった。

尹錫悦即時退陣・社会大改革緊急行動は、「荒野から広場へ-市民公開討論会」を開催した。尹錫悦退陣後の未来を夢見る市民たちと直接会い、私たちが望む世界とはどのような世界なのか、どのように実現できるのかについて共に語り合う場として企画された。

2025年1月25日（土）に開催された第1回公開討論会「私の広場出勤記」では、参加者の広場での経験、尹錫悦政権下で最も辛かったこと、尹錫悦退陣後に望む日常の変化などについて議論された。そして、この日最も多く議論された3つのテーマを、第2次公開討論会である「私たちの広場獲得記」でより深く議論した。第1回公開討論会で最も多く挙げられた3つのテーマは、フェミニズム、差別禁止とマイノリティの人権、民主主義と市民の参加だった。もはや私たちの社会に女性やマイノリティに対する差別は存在してはならず、性別平等が民主主義の完成であること、そして民主主義を最後まで共に守り抜くという参加者の願いが、討論の結論としても確認された。

一つ印象深かったのは、1回目の公開討論会で広場での経験を話しているときに、私が所属するグループのある参加者が「朴槿恵の弾劾の時も広場にいたが、今回の尹錫悦政権退陣運動の広場に行ったときは、平等な集会を行うための約束文が事前に共有されていて、とても驚いた。この間、私たち（市民）がこんなに成長したのだと実感した感動の瞬間だった。」と語ったことである。平等集会のための約束文を作成し、集会現場のLEDに表示し、集会司会者が紹介し、集会の合い間合い間に繰り返し案内していたが、これにより集会現場をより安全に感じられ、私たちが皆で共に民主主義を築いていることを実感しているという参加者の言葉を聞いて感慨深かった。

集会内で内乱首謀者である尹錫悦と内乱共謀勢力を非難する市民の発言文において、無意識のうちに精神障害者や非人間的な動物を蔑視する表現、または出演者の歌の歌詞に男性中心的な言語が含まれているケースがあったのがわかり、『集会発言者ガイドライン』と『公

演出演者ガイドライン』を作成して案内し、集会当日にもステージに上がる多くの参加者に対し、該当する内容を共有した。ステージに上がる多くの人々はガイドラインの内容を遵守し、該当する内容を説明する際にそれを注意深く確認し、平等な集会を作るよう努めた。これらすべては、誰もが排除されない、男女平等な民主主義を共に作り上げていくという共通認識がなければ実現できなかっただろう。

### **市民の力で民主主義を守り抜いた - 仲間意識と連帯で前進しよう**

2024年12月3日の非常事態宣言発令から2025年4月4日の憲法裁判所による尹錫悦罷免決定まで、尹錫悦即時退陣・社会大改革非常行動は60回を超える集会を開催した。毎週土曜日、そして平日も集会が行われ、その過程を振り返ると、困難で疲れる瞬間が多くあった。肉体的な疲れもあったが、憲法裁判所の判決の日が決まらず、待ち続けた間に感じた無力感や疲労感は二度と思い出したくない記憶でもある。しかし、それでも60回を超える集会を企画し、参加できたのは、共に広場を埋めてくれた市民たちがいたからである。そして、尹錫悦の罷免だけでなく、その後も女性やマイノリティが差別されない新しい社会、性平等な社会が必要だと声を上げる多くの市民たちがいたからである。

広場には何万人もの市民が集まり、憲法裁判所の判決をライブ中継で息を詰めて見守った20分間の瞬間が、はっきりと記憶に残っている。「大統領 尹錫悦を罷免する」という主文が宣告されると、誰もが喜びと勝利の歓声を上げた。状況室活動家たちは、周囲の同僚活動家たちに「これまで苦労したね」「私たちが勝った」「ついに終わった」と声をかけ合い、抱き合い、握手し、共に笑い、泣いた。

厳しい冬を経て春になった今、あの広場での記憶は私にとって大きな意味を持つものになると思う。より良い社会を作ろうという熱い思い、連帯の力で社会のあらゆる闘争の現場で声を上げる行動力、苦しく寒いときに互いに守り合った仲間意識。もちろん、尹錫悦の罷免で終わりではない。たとえゆっくりでも、私たちは一緒に前進していると信じている。

参考資料：非常行動プレスリリース 統計で見る「尹錫悦罷免要求非常行動」4ヶ月の活動

(翻訳：横田伸子)

